

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	光環境デザイン刊行小委員会		主 査 名：中村芳樹 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：久野 覚
設 置 期 間	2011 年 4 月 ～ 2014 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2011 年度：シンポジウムの成果の執筆</li> <li>・2012 年度：シンポジウムの成果の編集・権利関係処理</li> <li>・2013 年度：シンポジウムの成果の出版</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	主査：中村芳樹 (東京工業大学) 幹事：坂東 卓 (清水建設)、吉澤 望 (東京理科大学) 委員：内田 伸 (石川工業高等専門学校)、北村薫子 (武庫川女子大学)、鈴木広隆 (大阪市立大学)、藤村龍至 (東洋大学)、小泉 隆 (九州産業大学)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	300,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 委員会を 5 回開催し、企画編集内容に関する詰めの作業を進めた。 2. 国内外にて実測調査を行い、原稿に必要なデータを収集した。 3. 調査にて得たデータをもとに、原稿作成を進めた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 出版社の選定が遅れ気味であるので、2013 年度早々に決定する必要あり。 2. 「光の建築」のデータに関する権利関係の具体的な整理が必要。 3. 2013 年度は出版・入稿に向け委員会開催回数をさらに増やす予定。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	(B)	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>2012 年度までの 2 年間で委員会を計 8 回開催し、書籍「光の建築（仮題）」の出版にむけて企画案のまとめ、及び原稿の作成を行った。</p> <p>特に今年度は各委員が国内外にて「光の建築」の実測調査を行い、当書籍のテーマである、建築光環境の分析と、特徴的かつ象徴的な光の紹介に有用なデータを収集することができた。</p> <p>また母体小委員会である建築光環境デザイン小委員会（旧光環境デザイン委員会）で開催した過去 11 回のシンポジウムのデータに関する整理もまとまってきた状況にある。このように記事執筆に必要な素材はおおむね収集できた状態にあり、次年度には具体的な編集作業に入る予定である。</p> <p>一方、出版社の選定については現在滞っている状況であり、早々に出版社の選定を行いたい。また次年度には、委員と「光と建築に実務設計者」による座談会を開催するなどし、企画内容の充実化を図り、更なる本の完成度の向上を図りたい。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。